

「ことばの教育」パイロット校事業 報告書

学校名	三原市立幸崎小学校
校長名	山田 昌子
所在地	〒729-5255 三原市幸崎町能地3002番地
H P	URL:http://www.mihara.ed.jp/saizaki-es/index.htm
学級数	7学級
タイプ	

1 研究の概要

(1) 研究主題

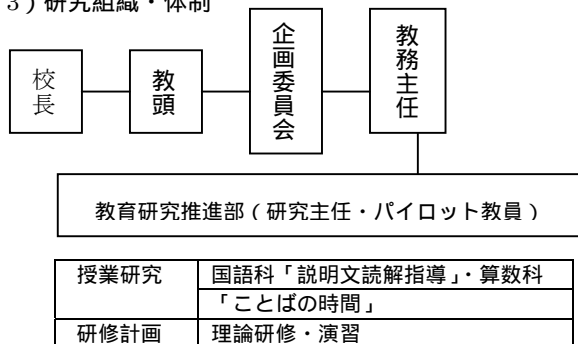
自ら学び、豊かに表現していく子どもの育成
「言語技術」の手法を取り入れ、
「ことばの力」を育てる

(2) 研究のねらい

本校の児童は、これまで県が示してきた方向性に基づく学校の取組によって、結論先行型で考え・理由を述べる力、自分の考えを整理して話す力は高まってきた。しかし、その力を教科の中に有効に活用した指導という視点で省みたときには、十分とはいえない。

そこで、学校裁量として特設した「ことばの時間」における「言語技術」の指導を中軸として、教科、とりわけ国語科・算数科において「言語技術」の手法を活かした指導法の工夫改善を行い、学力向上をめざしていくこととした。また、家庭との連携を強化しながら、コミュニケーション能力の基礎となる日常における「ことばの力」の育成を図っていきたいと考えた。

(3) 研究組織・体制



2 2年間の取り組みの概要

(1) 取組の柱

「ことばの時間」の年間カリキュラムの作成・実践
・各学年週1時間の特設の時間を使って、担任とパイロット教員のTT体制で「言語技術」を指導
「言語技術」を効果的に活用した教科指導
・教科における学びのスタイルの確立と、「言語技術」の手法を取り入れた教科指導
朝会タイム「わくわくお話タイム」と「ことばの時間」の関連付け

・「わくわくお話タイム」の年間計画に「言語技術」を位置づけ、担任による指導

日常の言語生活を高める

・児童会を中心とした言語生活についての討論

(2) 実践事例

〔事例 「ことばの時間」〕

*各学年の発達段階を考慮した「言語技術」の指導

ねらい

6つの技術を学年の発達段階に応じて、習得させる。

指導の工夫

- ・受け答えの技術を使って思考・表現できる授業構成
- ・児童の実態に応じたワークシートの工夫
- ・スモールステップで進める授業構成・指導

評価

児童は、それぞれの技術を学ぶことにより、筋道だった考え方・話し方を身につけることができた。また、議論後、文章化することで自分の考え・根拠を論理的に表現することができるようになった。

〔事例 「言語技術」を効果的に活用した教科指導〕

*4年算数科「式と計算の順序」

ねらい

式の意味を考えることができる。

指導の工夫

- ・学びのスタイルを確立し、効果的に「言語技術」を活用する。



学習場面	学習内容・学習活動	主に活用する「言語技術」
問題把握の場面	何をするのかつかむ 結果の見通しを立てる 解決方法の見通しを立てる	情報を分析する技術
自力解決の場面	自分の考えを絵や図や式で表す 自分の考えをまとめる	受け答えの技術
集団での練り合い	自力解決したものをわかりやすく話す 質問する 対話する 誤答を修正する中で思考を深める	情報を正しく伝える技術 受け答えの技術
適応題・自己評価の場面	対話する 学んだことを簡潔にまとめる ナンバリングを使って算数日記を書く	受け答えの技術

評価

- ・一人ひとりの児童が根拠を明らかにしながら式の意味を説明できるため、それぞれの考え方の比較・検討をスムーズに行うことができた。

〔事例 「わくわくお話タイム」〕

***担任による「言語技術」の指導**

ねらい

「ことばの時間」で培ったことばの力を、より確実に定着させる。

指導の工夫

- ・学級実態に即した教材の選定
- ・交流問答ゲーム等、学習形態の工夫

評価

- ・児童に的確な表現力が身に付くとともに、教師は適切な発問を考えられるようになった。



*** 日常の言語生活について討論する場の設定**

ねらい

「ことばの時間」で培った力を使って、学級の代表者に討論をさせることにより、児童の言語生活を振り返らせ、高める。

指導の工夫

- ・「自分たちの言語生活」を討論の題材にする。
- ・各学級代表者による討論の場の設定

評価

自分たちの言語生活を見直すことにより、コミュニケーションに大切な「相手を思いやることばかけ」が増えてきた。

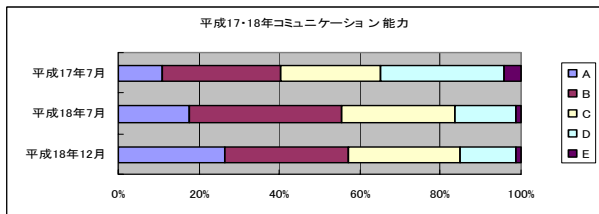


3 研究の成果と課題

(1) 成果

児童のコミュニケーション能力が高まった

授業におけるコミュニケーション能力(教師による授業観察)

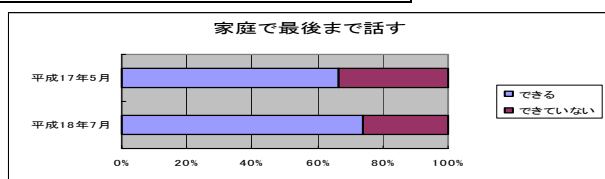


A: 友だちの考えと関連させながら発言, B: 自分の考えを発言, C: 挙手をしている, D: うなずきながら聞いている, E: 無関心である

昨年度7月と今年度12月を比較

- ・児童のABC評価の割合 20%アップ
- ・うち、児童のA評価の割合 15%アップ

家庭におけるコミュニケーション能力(保護者アンケート)

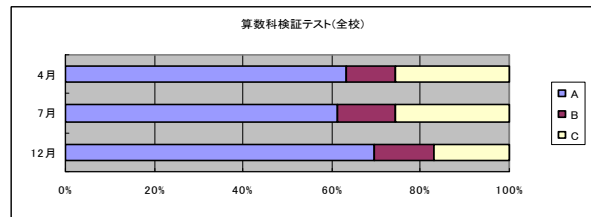


昨年度5月と今年度12月を比較

- ・自分の思いを最後まで話す児童の割合 10%アップ

児童の論理的な思考力が高まった

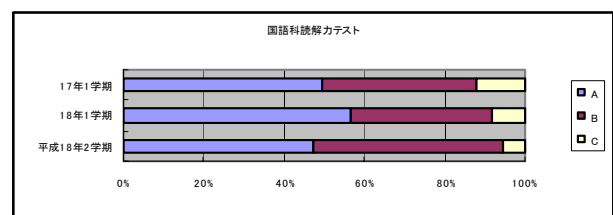
算数科における論理的思考力(算数科文章題検証テスト)



今年度4月と12月を比較

- ・児童のA評価の割合 5%アップ
- ・児童のC評価の割合 10%減少

国語科の読解力テスト(学年末市販テスト)



昨年度1学期と今年度1・2学期を比較

- ・児童のC評価の割合 5%減少

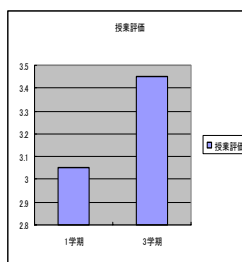
教師の指導力の向上が図られた

自己評価「言語技術」を活用した授業構成(4段階尺度法)

言語技術を意識して教科を指導 平均3.4点

ex 児童の発言を受けた的確な切り返し
根拠を問う発問, 等

授業参観者による他者評価(4段階尺度法)



1学期と3学期を比較

- ・全教職員の授業評価平均 3.05 から 3.45 へアップ
- ・3学期の授業評価 全員が3以上を達成

(2) 課題

論理的に考えたり話したりする力をさらに高めるために「言語技術」指導を継続して行っていく。

教科指導において「言語技術」の活用をさらに積極的に進め、国語・算数・社会を中心に効果的な指導法を確立する。

家庭など、日常生活場面でも習得した「言語技術」を使ってコミュニケーションできるように指導していく。